

会派視察研修計画書

平成31年1月15日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 杉浦哲也

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	杉浦哲也、新美交陽、鈴木清貴、小林晃三、生田綱夫、鈴木良和 山中謙治、林田 要、祢宜田拓治、沓名 宏、磯貝幸雄	
日 時	平成31年2月4日（月）～平成31年2月5日（火）	
視 察 先	1 神奈川県横須賀市 2 茨城県つくば市（筑波宇宙センター）	
研修内容	1 神奈川県横須賀市 終活支援について 2 茨城県つくば市 筑波宇宙センター視察	
日 程	2月4日（月）神奈川県横須賀市 13:30～15:00 2月5日（火）茨城県つくば市 11:00～12:30	
	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 台 所有者名（ ）



会派視察研修報告書

平成31年3月13日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 杉浦哲也 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 11名 分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	杉浦哲也、新美交陽、鈴木清貴、山中謙治、小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、林田 要、祢宜田拓治、磯貝幸雄、沓名 宏
日 時	平成31年2月4日（月）～平成31年2月5日（火）
視 察 先	1 神奈川県横須賀市 2 茨城県つくば市
研 修 内 容	1 神奈川県横須賀市 終活支援について 2 茨城県つくば市 筑波宇宙センター視察
日 程	2月4日（月） 神奈川県横須賀市 13:30～15:00 2月5日（火） 茨城県つくば市 11:00～12:40
備 考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

平成31年3月8日

議員氏名 磯貝幸雄

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成30年2月4日（月）～平成30年2月5日（水）
- 2 視察先 横須賀市、筑波宇宙センター
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

2日 エンディングプラン・サポート事業について

低所得・低資産・頼れる親族のいない独居高齢者に限定、民間企業の圧迫を回避該当者にだけ限定的に、定額で葬儀から納骨までの社会貢献的なプランを提供できる協力葬儀社を案内し、該当しない人は終活登録事業を紹介する事業。3要件は月収18万円まで、資産は固定資産評価額、500万円まで、親族・頼れる家族がいない人。

②私の終活登録事業は希望するすべての市民が対象、自分の意志で登録する。元気なうちに安心して繋げる終活情報を市に登録、市民ならだれでも無料で登録でき、いつでも変更、追加、削除ができる。現在のままだと亡くなった住民の1割の思想、信教の自由を結果的に守れなくなる危険性がある。地域住民のメリットは亡くなった時、大幅な負担を軽減できる。民間業者、顧客満足度アップ、市のメリットは無縁納骨堂の遺骨が減る、租税支出が減ることがあげられる。

3日 筑波宇宙センター

碧南市にPDエアロスペース株式会社・R&Dセンターがあり、この会社の理念は技術をもって社会に貢献、宇宙、地球、自然、人類との調和を保つ。存在を期待される企業を目指し、その活動の中で自己の存在意義を明らかにすることが企業理念である。

不屈のチャレンジスピリットこそ、原点とせよ。道なければ己で作れ。改良でなく創造せよ。時間、空間は有限であることを理解し、行動せよが社訓である。このような碧南関連会社が、水平離着陸、完全再使用、新型エンジンで無人機による高度100km到達&帰還を2019年達成を目指している。この事から、JAXAによる国内宇宙ベンチャー企業との連携・支援についての取り組みを勉強、エアロスペース社とは公募型共同研究制度の下、サブオービタル宇宙機の設計検討を実施している。

会派視察研修成果報告書

平成31年2月18日

議員氏名 菅名 宏

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成31年2月4日（月）～平成31年2月5日（火）
- 2 視察先 神奈川県横須賀市・茨城県つくば市
- 3 視察の種類 新政会会派視察
- 4 視察の成果等

一日目は横須賀市で「終活支援」についてである。現在日本各地で一人暮らしの高齢者が増加傾向にあります。横須賀市でも人口40万人のうち万人を越える方が対象であります。また、身元がわかっていながら引き取り手がいないご遺骨も年間50体にのぼっているそうです。こうした背景から、一人暮らしで身寄りが無く生活にゆとりが無い高齢の市民の方の葬儀・納骨など、あらかじめ解決をはかり、生き生きとした人生を送っていただくことを目指した事業である。対象者は、原則一人暮らしで頼れる身寄りが無く、月収18万円以下・預貯金等が225万以下で、固定資産評価額500万円以下の不動産しか有していない高齢者等の市民となっている。葬儀・納骨について、低額で生前契約を受ける協力葬儀社の情報を提供し、死亡届出人の確保について提案するものである。ここまでの支援が本当に必要なのか考えさせられた。それよりも、一人にさせない施策を願うものである。

二日目は、茨城県つくば市の宇宙航空研究開発機構（JAXA）で視察を受けた。政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的实施機関と位置でけられ、同分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して行っている。2015年には、国立研究開発法人となり、日本全体の研究開発成果の最大化を目指し新たな一步を踏み出した。中をいろいろ案内されたが、セキュリティーの厳しさは想像以上であった。この分野に関わる皆さんにより、何時かは気軽に宇宙に行ける時代が来るだろう、と信じている。

最後に、大変お世話になった関係各位に感謝を申し上げ、視察報告といたします。

視察研修成果報告書

平成31年 2月18日

議員氏名 小林 晃三

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成31年 2月 4日（月）～平成31年 2月 5日（火）
- 2 視察先 神奈川県横須賀市、筑波宇宙センター
- 3 視察の種類 新政会会派視察研修
- 4 視察の成果等

2月 4日（月） 横須賀市 横須賀市役所 「終活支援」について

横須賀市は市内に1万人を超える高齢者がおり、今後も人口減少・高齢化の影響もあり高齢者は増加傾向にある。その上で引き取り手のないご遺骨も年間で50体を数えるようになってきた。このような背景から横須賀市はひとり暮らしの高齢者を中心に葬儀、納骨、生活環境を良くするという目的でエンディングプランサポート事業を展開している。その他、終活情報伝達事業として 連絡先やかかりつけの病院、福祉事務所などの情報をまとめたものを登録でき、もしもの場合の本人の意思の実現を支援するものである。

所感：高齢化は日本全国での課題であると認識しているが、特に人口の多い中核市では引き取り手の問題や空き家問題など様々な事象として表面化してきているようです。碧南市においても現時点では人口は微増ではあるが、高齢化は進んでいる。近い将来には中核市が経験しているような、高齢者対策が必要になってくるのではないかと思います。本市の体力のあるうちに、長期的な視野で高齢者対策を進めるべきだと感じました。

2月 5日（火） 筑波宇宙センター

筑波宇宙センターではJAXAが推進する活動のうち、・宇宙からの目となる人工衛星の開発や運用及び観測画像の解析 ・「きぼう」日本実験棟を用いた宇宙環境利用や宇宙飛行士養成と活動推進 ・ロケット輸送システムの開発と技術基盤確立のための技術研究推進 以上を通じて日本の宇宙開発の中核を担っている。
また、碧南市に拠点を置くPDエアロスペース社やその他の宇宙ベンチャー企業との連携・協力を行っている。

会派視察研修成果報告書

平成 31年 2月 7日

議員氏名 林田 要

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 31年 2月 4日（月）～平成 31年 2月 5日（火）
- 2 視察先 横須賀市、つくば市
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

2月4日（月）神奈川県横須賀市「終活支援について」

■エンディングサポート事業について

低所得、低資産にあわせて頼れる親族のいない独居高齢者を対象として、葬儀社と連携した死後事務委任契約を中心とする支援事業である。生前に市役所での希望聴取、葬儀社の情報提供、死亡届出人や葬祭執行者の確保協力などを行い、最低納骨費 25 万円を葬儀社に予納させる。従前は住民票と戸籍だけで親族の検索が可能であったが、携帯電話の普及を一因とした連絡手段の喪失が事業背景である。

■終活登録事業について

対象者は全市民であり、緊急連絡先、かかりつけ医、遺言書の場所、お墓の所在地などを市役所で一元登録・管理。地域コミュニティが多くなりすぎると、個人を特定することが難しくなっていることがジレンマ。民業との連携も不可欠であり、同時に民業支援にもなっている。引き取り手の無い遺体・遺骨の対応を公費で賄い続けることへの危機感から職員提案による事業として始めている。

2月5日（火）茨城県つくば市「筑波宇宙センターについて」

■碧南市内で操業しているPDエアロスペース社をはじめ、近年は国の方針により宇宙航空産業との連携が進められている。当社は公募型共同研究制度の下、サブオービタル宇宙機の設計検討を実施している。そのような背景があり、国内宇宙産業の中心地である筑波宇宙センターを訪問し、施設見学をさせていただいた。東京ドーム12個分の広い敷地面積を誇る当該地では、人工衛星の管制や宇宙飛行士の訓練他を行っている。

会派視察研修報告書

平成31年2月/5日

議員氏名 鈴木清貴

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

1 期間 平成31年2月4日（月）～平成31年2月5日（火）

2 視察先 神奈川県横須賀市
茨城県つくば市 筑波宇宙センター

3 視察の種類 会派行政視察

4 視察の成果等

神奈川県横須賀市

研修項目：終活支援について

横須賀市の高齢化の現状

県内最高の高齢化率 約30%

約12万人強の高齢者のうち、2015年一人暮らしの高齢者が1万人を超えた。

2040年の全国世帯数の将来推計では、65歳以上の単身世帯が4割超となる。

全国の引き取り手のない遺骨は年々増加しており、横須賀市においても平成22年度43柱から平成26年度の60柱にした。多くの人が住民登録があり、預金もある一般市民。

市費を使って火葬し、納骨堂に安置している。

1. エンディングプラン・サポート事業

民業圧迫を回避するため、低所得・低資産・頼れる親族のいない独居高齢者に限定。

月収：18万円まで

資産：固定資産評価額500万円以下

本人の希望を聞き、協力葬儀社の情報を提供し、生前に死後事務委任契約を締結、費用を予納（25万円）。死後、契約を履行（納骨まで）。

今、連絡先が解らなくなっている。携帯電話の普及とともに、本人が倒れると連絡先が解らなくなり、支援者が誰なのか解らなくなった。墓の場所も解らない。

2. 私の終活登録事業（終活情報登録伝達事業）

希望するすべての市民が対象

元気なうちに安心して繋がる終活情報を市役所に登録

登録できる項目は自由に選択できる。

（例）本籍・筆頭者、緊急連絡先、支援事業所、医師・薬・アレルギー、エンディングノートの保管場所、墓の所在地等

倒れて入院、徘徊して保護など緊急の時、病院警察消防などからの問い合わせに市役所が回答できる。

公費で火葬する費用が節減できる。

人口の1.5～2%が毎年死亡し、うち10%が引き取り手のないご遺体となる時代が来る。

横須賀市では、40万人×1.5%×10%×25万円＝1億5千万円

（碧南市 7万人×1.5%×10%×25万円＝2625万円）

茨城県つくば市

研修項目：筑波宇宙センター視察

碧南市に研究開発拠点を置くPDエアロスペース社と宇宙イノベーションパートナーシップのプログラムで覚書の締結する国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）を視察。

公募型共同研究制度により、サブオービタル宇宙機の設計にJAXAの知見を提供しているとの説明を受けた。

その後、展示館と人工衛星の追跡管制室を見学した。

以上を持って研修を終了した。

視察研修成果報告書

平成31年2月 18日

議員氏名 鈴木良和

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成31年2月4日・5日
- 2 視察先 神奈川県横須賀市・茨城県つくば市
- 3 視察の種類 会派視察研修(新政会)
- 4 視察の成果等

(1) 2月4日(月)横須賀市「終活支援について」

日本の世帯数の将来推計は2040年には単身世帯は39.3%、うち65歳以上は44.9%となり4割がひとり暮らし世帯となると予想されています。また65歳以上の独居率は男性20.8%、女性24.5%に未婚率は男性14.9%、女性9.9%と推計されています。

平成27年度大阪市の引き取り手のない遺骨は2999柱あり、市の支出は9億円かかったとの事です。

横須賀市では引き取り手のないお骨は市の費用で火葬し職員が納骨堂に安置している。しかし納骨堂が一杯になると職員が骨と壺とを分け、壺は産廃で廃棄し、お骨は合葬墓にまとめている。この費用は市が負担している。役所は元気なうちに安心につながる終活情報を市に登録してもらうことを勧めている。このことから地域コミュニティが強化され空き家問題も少しでも解決されていかれると期待する。

本市においても高齢化対策を意識しエンディングプラン・サポート事業、終活支援事業を勧めていかれることを考える。

(2) 2月5日(火)つくば市「筑波宇宙センターについて」

JAXAによる国内宇宙ベンチャー企業との連携・支援」「宇宙産業ビジョン2030」などの動向を踏まえつつ宇宙ベンチャー企業等との連携を強化し、より大きな価値創造や新たな宇宙利用の拡大を推進。

ベンチャー企業はアストロスケール社、ALE社、iSPACE社、アクセルスペース社、インターステラテクノロジーズ社、最後は碧南市に本社を置くPDエアロスペースがこの施設と協力しています。

本市のPDエアロスペースは民間主導で「宇宙飛行機(スペースプレーン)の開発を行い宇宙旅行や宇宙太陽光発電所など民需としての宇宙利用の拡大を目指す。ジェットエンジンとロケットエンジンの二つの機能を持つ「燃焼モード切替エンジン」が最大の技術特徴。現在エンジン開発と並行して無人小型実験機を用いた飛行試験を実施中

です。本市にこのような宇宙開発事業者の存在を知っている人達が見えるかが疑問である。さらなるPRをして宇宙開発を推進している碧南市を日本中にPRすべきと考える。

最後に2日間にわたる関係各位感謝を申し上げ、視察報告といたします。

視察研修成果報告書

平成31年 2月14日

議員氏名 杉浦 哲也

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成31年 2月 4日（月）～ 平成31年 2月 5日（火）
- 2 視察先 横須賀市・筑波宇宙センター
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

●横須賀市 「終活支援」について

横須賀市が取り組んでいる終活支援は、エンディングプラン・サポート事業と終活情報伝達事業の2事業があります。

*エンディングプラン・サポート事業

現在、横須賀市内には1万人を超えるひとり暮らしの高齢者がおり、増加傾向にあります。また、身元がわかっていながら引き取り手がないご遺骨も、年間50体にのぼっているそうです。このような背景から、ひとり暮らしで身寄りがなく生活にゆとりがないご高齢等の市民の方の葬儀・納骨・リビングウィルという課題について、あらかじめ解決を図り、生き生きとした人生を送っていただくことを目指し実施している事業である。

対象者は、原則として、ひとり暮らしで頼れる身寄りがなく、月収18万円以下・預貯金等が225万円以下程度で、固定資産評価額500万円以下の不動産しか有しない高齢者等の市民の方で、事業内容は、終活課題についての相談・支援プランの策定の保管・終活課題の解決に向けた連携・支援等を行っている。

事業予算については、平成30年度で10万3千円と少額です。

*終活情報登録伝達事業

近年、ご本人が倒れた場合や亡くなった場合に、せっかく書いておいた終活ノートの保管場所や、お墓の所在地さえ分からなくなる事態が起きており、こうした「終活関連情報」を、生前にご登録いただき、万一の時、病院・消防・警察・福祉事務所や、本人が指定した方に開示して、本人の意思の実現を支援するという事業で、希望する市民の方ならどなたでも登録できるそうです。（平成30年5月開始、事業予算7万円）

●筑波宇宙センター

筑波宇宙センターは筑波研究学園都市の一面にあり、1972年に開設しました。約53万平方メートルの敷地に、緑ゆたかな環境と最新の試験設備を備えた総合的な事業所で、JAXAの推進する活動のうち、宇宙からの目となる人工衛星の開発・運用およびその観測画像の解析・「きぼう」日本実験棟を用いた宇宙環境利用や、宇宙飛行士養成と活動推進・ロケット・輸送システムの開発と、技術基盤確立のための技術研究推進を行っており、日本の宇宙開発の中核センターとしての役割を果たしているそうです。

視察をする中で、JAXAの職員さんから碧南を拠点として宇宙船を開発しているPDエアロスペース社とJAXAの関係についての説明がありました。現在、JAXAでは、「宇宙産業ビジョン2030」などの動向を踏まえつつ、宇宙ベンチャー企業等との連携を強化し、より大きな価値創造や新たな宇宙利用の拡大を推進しているそうで、その連携・支援をしている宇宙ベンチャー企業の中の一社がPDエアロスペース社であるということでした。

視察研修成果報告書

平成31年3月6日

議員氏名 新美 交陽

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成31年2月4日（月）～2月5日（火）
- 2 視察先 横須賀市、つくば市
- 3 視察の種類 新政会
- 4 視察の成果等

2月4日（月）

視察先：横須賀市福祉部生活福祉課自立支援担当：北見万幸課長

人口減少（10年で2万人）である

高齢化率は30%である

「終活支援」について

(1) 支援制度の概要について

必要性

- ・高齢化率 31.0%
- ・単身世帯（2040年）が4割になる
- ・町内会維持困難
- ・女親が100才を超える

引取り手のない遺骨

- ・大阪市は10%（9億円／年 市負担）
- ・横須賀市は1%だが大阪に近づいていく
- ・政令市平均 3.3%
- ・すべて身元が分かっている人
- ・平成7年から増えている
- ・無縁納骨堂（市）がある
- ・どんどん増えることに対応する為

(2) 支援制度の創設に至った経緯について

- ・低所得、親族に頼れない人
- ・月収18万円

- ・資産：リバースモーゲージに準拠
- ・25万円ですべて出来る
- (3) 支援制度の利用状況について
 - ・ES（エンディングプランサポート事業）は37件
（50人中37人は市負担しないで済む）
 - ・わたしの終活 - 83件（目標は1万件）
- (4) 協力企業・団体数と業種について
 - ・葬儀社10社の申し込みがあった
 - ・25万円で税負担なら会社として安心できる
- (5) 期待された効果と今後の課題について
 - ・将来10%の遺体を市で火葬する時代が来る
 - ・早急に他市も取り組む方が良い
 - ・新しい住民登録制度が必要（携帯が通じない）
 - ・夫婦で各々がどこの墓に入っているのか分からない
 - ・墓石屋が情報を知っている
 - ・互助会葬儀屋は利用できるとは限らない - 解約になる（損をする）
 - ・地域コミュニティが元気なうちは良い - ひとつの内は大丈夫である
 - ・地域コミュニティが多種あると身元が分からなくなる
 - ・出前トークで啓蒙が必要（土日に多くやっている）
 - ・消防システムに組み込む必要あり

H27～

- ・エンディングプランサポート事業（ES）
- ・市最低額で葬儀・納骨の生前契約する

H30～（市民全員）

◎わたしの終活登録

- ・無料で終活情報を預かり、万一の時に伝える
- ・所得、資産の制限、親族有無の制限は一切不要
- ・終活情報の保管場所を登録してもらう（内容は見ない）

登録書

- ① 本籍・筆頭者
- ② 緊急連絡先
- ③ 支援事業所、終活サークル
- ④ 医師、薬
- ⑤ エンディングノートの保管場所
- ⑥ 臓器提供の意思表示
- ⑦ 葬儀、納骨の生前契約

- ⑧ 遺言書の保管先
 - ⑨ お墓の所有地
 - ⑩ 空家についても答えてもらう（大事である） — 情報が早くつかめるのでその後の対応が早く出来る
- …等を登録しておく

結果

病院、警察、消防、福祉事務所、指定者が市に問合せがあった時、すぐ回答できる

- ◎町内会が苦勞しないで済む
- ◎どこかで引っ掛かり活用できれば良い

2月5日（火）

視察先：つくば宇宙センター見学

JAXA：民間企業に利用してもらう

◎PDエアロスペースがJAXAに参考意見をもらっている

2018年12月：両者覚書締結

内容：JAXAが保有する技術、ノウハウ等を活用するとともに、双方で協働して、新たに獲得する技術等を用いて、日本の将来宇宙輸送技術の研究開発の発展や実用化を図ることを目指す

- ・HⅡロケットの実機見学
- ・宇宙飛行士養成施設の見学
- ・国際宇宙ステーション（ISS）との交信ルームの見学
- ・ISSのリアルタイム映像の見学

会派視察研修報告書

平成31年 2月22日

議員氏名 山中 謙治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成31年 2月 4日（月）～平成31年 2月 5日（火）
- 2 視察先 横須賀市、つくば市
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

● 2月4日 横須賀市 「終活支援」について

・ 支援制度創設に至った経緯

横須賀市の高齢化率30%で、平成27年には一人暮らしの高齢者が1万人を超えた。引き取り手のないお骨は市の費用で火葬し、職員が納骨堂に安置し、納骨堂が一杯になると職員が骨と壺を分けて合葬墓にまとめている。

独居死亡者の遺書が発見されても死亡者の意思は生かされず、預金をおろせる親族もわからず、市の負担になっている。

今後も増加が予測され、本人意思による預金の活用及び市の負担軽減の為、支援制度が創設された。

・ エンディングサポート事業

低所得、低資産、頼れる親族がない独居高齢者に限定して、市役所にて登録申請同意書作成し、民間葬儀社を紹介して死後事務委任契約を締結する。

葬儀社に最低納骨費として予納していただき、死後、葬儀・納骨までの契約を履行してもらう。

以前は住民登録のある市民であれば、住民票・戸籍だけで親族が確認できたが、携帯電話の普及により、親族への連絡手段が喪失したことも支援制度創設の一因となったとのことである。

・ 終活登録事業

対象者は全市民であり、登録項目は自由選択でいつでも追加・変更が可能である。まず、生前に登録いただき、登録用紙は氏名や番号等のみPCに入力し、基本紙ベースにて保存。

万が一の場合のみ、警察、病院や本人が指定した方に開示して、本人の意思実現を支援する事業である。

● 所見

今後本市においても、死亡者増加とともに公費による火葬・納骨の費用が増大していく事が予想される。

横須賀市の取り組みは故人の遺志の尊重及び、公費の軽減にも繋がり、必要になってくると思われる。

●筑波宇宙センター視察

筑波宇宙センターは1972年に開設され、人口衛星の管制や宇宙飛行士の訓練等を行っている。

碧南市にて操業しているPDエアロスペース社など多くの企業と連携し、航空産業との連携が進められている。

PDエアロスペース社も当施設と連携して実験を行っているとのことである。

視察研修報告書

平成31年2月20日

議員氏名 生田 綱夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成31年2月4日（月）～平成31年2月5日（火）
- 2 視察先 神奈川県横須賀市・茨城県つくば市
- 3 視察の種類 会派視察研修 新政会
- 4 視察の成果等

研修内容

2月4日（月） 神奈川県横須賀市

「終活支援」について

- (1) 終活支援の概要について

2月5日（火） 茨城県つくば市

「筑波宇宙センター」について

- (1) 事業の目的と内容
- (2) 施設内視察

研修所感

2月4日（月） 熊本県熊本市

「終活支援」について

- (1) 終活支援の概要について

現在横須賀市内に1万人以上の一人暮らしの高齢者がおり、増加傾向にある。

身元が分かっていながら引き取り手が無い御遺骨も年間50体にも上る。

こうした背景から一人暮らしで身よりも生活にゆとりがない高齢等の市民の方の葬儀・納骨・リビングウィルという課題についてあらかじめ解決を

図り生き生きとした人生を送って頂く事を目指した事業

ア エンディングサポート事業

生前に葬儀業者との契約を行い、無縁仏の解消を図る事により行政の支出を軽減し、本人の意思も遂行できる。

現に一部地域では葬祭費用を行政が支払う割合が10%を超える地域もある。

イ 終活登録事業

自分がもしもの時に、緊急連絡先や掛かりつけの医者、遺言書の保管先やお墓の住所等を登録する事により、自分の意志とは違う事にならないようにする仕組み

以前テレビでこの担当者のドキュメントを実施していたのを見ましたが、その時は、行政職員でここまで市民の事を考えて行動している方が見えるのかと感心した一方、周りの職員が同調出来ているのかと心配していた。

実際に講義内容を確認してみると市民にも行政費用にも良い点が多く必要性も感じた。しかし、現場の財政部局にはまだ必要性が届いていない感じが年間予算からも伺えた。年間総予算17万。

2月5日（火）茨城県つくば市

「筑波宇宙センター」について

JAXAでは国内宇宙ベンチャー企業との連携・支援を行っている。その中でも碧南市におけるPDエアロスペース社との連携支援も行われている事により、今後のこの企業の未来性と碧南市のとの共存等を考え支援状況の確認と施設確認を行った。

世界中で多くの企業が将来的な宇宙へのビジネスを企画している中で、当市の企業も同様にこのJAXAとの連携・支援により実施を目指している。

将来的にはジェットタイプで一人2000万以内で宇宙空間を旅できる事を目指している企業が市内にある事で、子ども達の将来の夢も期待が膨らむ事であろう。

施設視察した際には現在惑星に観測機が到達したとのマスコミでの発表していた部屋が映し出され、さらに身近に感じられ、生きている間に宇宙への旅立ちが先か、亡くなるのが早きかが気になる所だ。

視察研修成果報告書

平成31年 3月 4日

議員氏名 柰宜田 拓浩

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成31年 2月 4日（月）～31年 2月 5日（火）
- 2 視察先 横須賀市役所、筑波宇宙センター
- 3 視察の種類 会派（新政会）
- 4 視察の成果等

(1) 2月 4日（月）午後1時30分～

視察先： 横須賀市役所

研修項目：「終活支援」について

説明者：福祉部次長・自立支援担当課長 北見 万幸 氏

①支援制度の概要と創設経緯

- ・横須賀市（人口約40万人）内には1万人を超えるひとり暮らしの高齢者がおり、増加傾向にある。（碧南の独居老人は約1,500人）
- ・身元が不明で引き取り手がない遺骨は年間50体ある。
- ・こうした背景から、ひとり暮らしで身寄りがなく、生活にゆとりがない高齢の市民の葬儀、納骨という課題についてあらかじめ解決を図ろうとする事業
- ・今のままだと、人口の1.5%～2%が毎年死亡し、うち10%（今は全国政令市平均3.3%、最大10%、横須賀1%）のご遺体を公費で火葬する時代が来る見込み。
- ・民業を圧迫しない範囲で、最低限で葬儀、納骨の生前契約の見守りと見届けを行う制度を作るべきと考えて創設した。

②エンディングプランサポート（ES）事業の内容

- ・低所得、低資産、頼れる親族のいない独居高齢者に限定して、（民業圧迫を回避）低額で葬儀から納骨までの社会貢献的なプランを提供できる協力葬儀社を案内する事業
- ・該当しない人には「私の終活登録」事業を紹介する
- ・月収は18万円まで、資産は要保護者向けリバースモーゲージに準拠して、固

定資産評価額500万円まで、たよれる親族がないことが条件の方が市役所に登録申請でき、葬儀社と生前契約。予納する。

- ・こうすれば、市役所は葬儀社の倒産リスクのみを負えば済んで、多額な引き取り手のない死体の火葬費用等の負担を大きく軽減できる。

③私の終活登録事業について

- ・無料で終活情報を市で預かり、万一の時に伝えて、自己実現的葬送を選べる。
- ・所得、資産制限、親族有無等は一切不問
- ・終活情報だけを登録
- ・いざという時に必要な人に答える。
- ・家について（空き家）も書いて貰っている。

④利用状況

- ・ES事業：27年7月開始で計37件登録
- ・わたしの終活登録：30年5月開始で83件

⑤課題

- ・休庁日の対応ができていない。
- ・情報が電子化出来ていない。
- ・救急の段階で表示されると良いができていない。

【所感】

この事業は、盲点の事業だと思う。職員提案のようだけど、すごく良い発想だ。1人暮らしや要介護者や要支援者の台帳とのリンク等すると、漏れがすくなくなるし、意向が反映され易いと思う。是非、本市でも一考すべきだと思う。

(2) 2月5日(火) 11時30分～

視察先： 筑波宇宙センター

①センター内の視察と説明について

- ・宇宙開発事業の実態と最先端技術の説明を受けた。
- ・国内宇宙ベンチャー企業との連携、支援について説明を受けた。本市に研究施設があるPDエアロスペース社についても説明を受けた。(ロケットエンジンとジェットエンジンが切り替えできるパルスジェットエンジンの開発)

【所感】

警備やチェックが非常に厳重で驚いた。

宇宙開発の現状や宇宙服の現物が見れて触れた。

宇宙ステーションとの連絡基地、交信機器、交信映像を真近で見れた。

PDエアロスペース社が身近に感じられ、すごいことをやっていることを再認識した。

急に宇宙が身近に感じた。